



生涯教育センター 特命教授 五十嵐恵美子
 荒井ママレ 著 医療原案/富野浩充
 『アンサングシンデレラ』
 ゼノンコミックス (徳間書店2018年11月)

「もしかして、薬剤師っていらなくない？」衝撃的な一言から始まる漫画です。主人公は、総合病院で2年目薬剤師として働く葵みどり26歳。医師のように頼られず、看護師のように親しまれなくても、患者の当たり前の毎日を守るため院内を駆け回る医療ドラマと紹介されています。患者のために東奔西走し、時には無茶もする主人公が前向きで非常に元気を貰えます。薬剤師あるあるの事柄が描かれる中、薬学的に謎解きがなされ、ドラマティックで格好良い雰囲気が全体に流れています。

「自分で自分の立ち位置決めちゃったら、そっから進めなくなるぞ」なんて心に刺さるセリフも満載です。

これまで医療系ドラマの主演は常に医師や看護師であり、そこに薬剤師の姿があっても脇役でしかありま



せんでした。薬剤師が初の主人公となるこの漫画は、薬剤師にとって悲願といっても過言ではありません。作画もきれいで、率直に作品としても面白く楽しめます。少し気が早いですが、アニメ化、ドラマ化も期待しましょう。

またマニアックな薬剤師目線で読むのも面白いかもしれません。表紙では、手に「治療薬マニュアル」を持ち、よく見ると内服薬の棚は50音順ではなく薬効別に並んでいます。外来患者1,200人を薬剤師10人で対応しているのだからかなり忙しい病院と想像できます。薬剤師国家試験常連問題の「テオフィリンとタバコの相互作用」や「小児への粉薬の飲ませ方」などの題材も科学的に解説されています。やはり日経DIでコラム「当直室からこんばんは」を執筆する富野浩充先生が医療原案だからでしょう。原案についてあれこれ書いたブログも面白いので興味があれば訪れてみてはいかがでしょうか。

(<http://1031.torsades.chillout.jp/?eid=81>)

チーム医療の中で医師や看護師から頼りにされ、患者に寄り添って、「薬剤師さん」ではなく「薬剤師の〇〇さん」と名前で呼ばれる、ガッツのある葵みどりのような薬剤師になって欲しいとの願いを込めて本書を推薦します。なお本書は、本学図書館で解禁された漫画第1号です。是非手に取ってみませんか。

「白衣授与式」開催

Event

教務課

2019年2月18日(月)午前10時から創立130周年記念館において、病院・薬局での実務実習を直前に控えた学生332名を対象に、白衣授与式を開催いたしました。

式典では、学生の代表者2名が学長から白衣を授与された後、全員が校章と大学名の入った白衣を着用しました。その後、後藤学長から式辞、矢野臨床薬学教育研究センター長から「実務実習に向けた心構え」、

教育後援会を代表して清水辰巳会長から挨拶が述べられました。

最後に学生の代表から「患者さんに寄り添い、心のこもった医療を提供する、患者さんに合った適切な医療を提供する、そのために何ができるか、患者さんとうまく向き合うべきかを学び、考えたい」との誓いの言葉が述べられ、閉式となりました。



学生代表者の宣誓



真新しい白衣に袖を通し、気持ちも新たに